

緑のセンターだより



No.148

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 26 年 6 月 1 日

講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「山野草の寄せ植えづくり」教材費 ¥1,000

とき 平成 26 年 6 月 1 日（日）
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 北海道山草趣味の会 森下光晴さん



「庭木の剪定」ツツジ類など花木 実習

とき 平成 26 年 6 月 22 日（日）
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川市公園緑地協会 職員



「フラワーハンギングバスケット作り」教材費 ¥2,000

とき 平成 26 年 6 月 29 日（日）
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 フラワーマスター 山本裕美さん



「植物の病気と害虫と農薬の正しい使い方」

とき 平成 26 年 7 月 6 日（日）
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 緑のセンター 相談員

「観葉植物の寄せ植え」教材費 ¥600

とき 平成 26 年 7 月 13 日（日）
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 緑のセンター 相談員

《連続講座のお知らせ》
午後 1:30~3:30
第2回目 6月 8日(日)「神楽岡公園の帰化植物」
-オハコソウの抜き・作業のしやすい服装(長靴、軍手)
第3回目 7月 20日(日)「植物の殖やし方」



【緑のセンターまつり2014】平成26年8月3日(日)10時~16時 神楽岡公園・緑のセンターにて
催し:フラワービンゴ、親子もちつき、よさこい演舞、神楽岡太鼓、寄せ植え体験、屋台、園芸・農産物即売…
展示:洋ラン、ミニ盆栽、山野草、盆景、押し花など…スタッフ一同、お待ちしております!

☆フラワービンゴゲームで豪華な鉢花のプレゼントがたくさん当たります!

お子様に…



展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

「温室の植物写真展」6月6日~29日

☆花フェスタ 2014☆

会場:大雪アリーナ

期間:6月11日~15日

【花と緑のコーナー】10時~16時

*野点のお楽しみ:6月15日

会場:クリスタルパーク

*10時~14時

先着 100 名さま

無料ご招待!



【休館日のご案内】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)
11月~3月は毎週月曜日が休館日です。(")

〈園芸の基礎知識〉 植物の葉

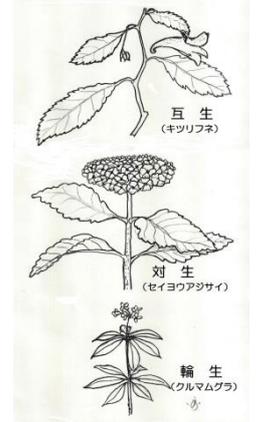
～ 葉のつき方と葉脈の種類 ～

前号では、葉身や葉柄などの「葉の構造」について説明しました。今回は「葉のつき方」と「葉脈の種類」について説明します。

1 葉のつき方

茎に対する葉のつき方を「葉序（ようじょ）」といい、いくつかの種類があります。

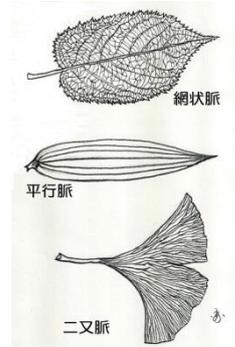
- **互生**（ごせい）…葉が1節に1枚だけつくものをいいます。多くは、らせん状につくので、これを螺旋生（らせい）と呼ぶこともあります。（キク、サクラなど）
- **対生**（たいせい）…葉が1節に2枚ずつ向かい合うようにつくものをいいます。上から見て十字型につくものを十字対生（じゅうじたいせい）、平面的に直列線が2本のを2列対生と呼びます。（アジサイ、カエデ、リンドウなど）
- **輪生**（りんせい）…1節に3枚以上の葉がつくものをいいます。3枚つく場合を3輪生、4枚を4輪生、5枚を5輪生と呼ぶことがあります。（クルマユリ、ヨツバヒヨドリなど）



2 葉脈の種類

葉脈（ようみゃく）は葉の中を通る維管束（いかんそく）で、茎から水や養分を受け取り葉で作ったデンプンなどを運ぶ通路と葉の骨格的な役割を果たしています。つき方で分けることができます。

- **網状脈**（もうじょうみゃく）…主脈から細かく枝分かれした葉脈が、互いに結びついて網目状になるものです。これを更に、羽状脈（うじょうみゃく）と掌状脈（しょうじょうみゃく）、鳥足状脈（ちょうそくじょうみゃく）に細かく分類することができます。（サクラなど）
- **平行脈**（へいこうみゃく）…多数の主脈や側脈が交わることなく平行して走り、横に細かい脈が連結するが、網目状にはならないものです。（ササユリなど）
- **二又脈**（ふたまたみゃく）…葉脈が二又に枝分かれを繰り返し、葉脈が相互に結びつかないものです。（イチヨウ）



（参考資料：学研「植物の生態図鑑」、八坂書房「図解植物用語事典」ほか）

緑の相談 QアンドA (22)

旭川工業高校付近の道路に植えられている花で、ユリの種類と思いますが、花期が長く丈夫そうなので植えてみたいのですが、名前と育て方を教えてください。

お尋ねの花は、濃い黄色の小さな花で、草丈もコンパクトな四季咲き性の「ヘメロカリス ‘ステラ・デ・オロ’」という園芸品種だと思います。ヘメロカリスは、以前ユリ科の分類でしたが、現在はヘメロカリス科ワスレグサ属に分類されており、英名で「デイリリー」と呼ばれるように1日でしぼみますが、次々に新しい花が咲きますので、長く咲いているように見えるのです。性質は強健で、1度植えると長く楽しむ手間がかからないため「パーフェクトプランツ」とも呼ばれます。

【育て方のポイント】

- 植付け…春か秋頃に肥沃で日当たり排水の良い場所。
- 肥料…花後に油かすなど緩効性肥料を少量施肥。
- 病虫害…開花期に白く大きなアブラムシの発生に注意。
- 殖やし方…花後の株分けか種まき。



（参考資料：札幌商工会議所「北国のガーデニング」、(株)エフジー武蔵「風のガーデンに咲く宿根草の育て方」ほか）

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー (Q&A)」を掲載していません。こちらもご利用ください。

植物の病害虫

その19 「幼果菌核病（サクランボ）」

古くから発生が知られており、道内のサクランボ(オウトウ)産地では恒常的に発生しています。個々の果実が侵されるのが特徴で、灰星病のように集中して発生することは少なく、果実から果実へは伝染しない病気です。



幼果菌核病(果実)

(山形県病害虫診断防除支援システムより)

1 寄主範囲

サクランボ(オウトウ)、サクラ

2 病徴

葉や幼果が侵されます。

葉では若い葉が褐変し、葉脈、中肋(葉の中央を縦に通っている太い葉脈)、葉柄に灰白色の胞子ができます。果実では落花直後の幼果から人の指先の大きさになるまでの間に発生します。

病徴が進むと、幼果内部から褐変が進み、幼果全体に拡大し、果梗まで褐変します。表面に灰白色の胞子の塊を形成し、しわを生じて小さくなります。

胞子塊の数は灰星病にくらべて少なく、被害果は収穫期までに落果し、菌核になります。

3 伝染経路

落果した病果内に菌核を生じて越冬します。

翌春には菌核から子のう盤が作られ、飛散した子のう胞子は若い葉や開花中の花に感染します。柱頭から幼果内に侵入し、内部から腐敗させて果実全体に病徴が広がってきます。

4 発生環境

葉腐れの伝染源は越冬菌核(前年度落下した罹病果)上の子実体から飛散する子のう胞子で、第1葉抽出～展開までが最も感染しやすい時期です。

幼果腐れは開花当日～開花3日後が最も感染しやすい時期で、その伝染源は子のう胞子、近隣のサクラ類やサクランボ(オウトウ)の罹病した葉の分生子です。

葉腐れは開花 20 日前～開花 10 日前にかけて低温多雨に経過するほど多発します。

幼果腐れは開花 10 日前～満開期にかけて多雨に、また開花期～満開期の最高気温が低いほど多発傾向になります。

5 防除法

(1)罹病した果実は翌年の第一次伝染源になるので、収穫前までに集めて土中深くに埋めます。

(2)幼果の発病を防ぐには、柱頭侵入防止のために開花中の薬剤散布が必要です。

効果的な薬剤例として、チオファネートメチル水和剤(商品名トップジンM水和剤)の 1000～1500 倍を散布します。サクランボ(オウトウ)の使用基準は、収穫 14 日前まで3回以内。なお、本剤は耐性菌により効果が不十分なことがあります。

サルナシの開花

サルナシはマタタビ科マタタビ属で、別名シラクチカズラ、シラクチヅル、果実はコクワです。雌雄異株または雌雄雑居性の落葉性つる木本植物で、その仲間には科名になっているマタタビ・ミヤママタタビやシナサルナシなどがあります。シナサルナシを品種改良したものがキウイフルーツです。花には雄株につく雄花と、雌株につく雌花・両性花があり、白色で5弁の花を6から7月に咲かせます。果実は10月ころ熟成します。



雄花



両性花

サルナシとマタタビは日本全国に自生していますが、マタタビは開花期ころから葉の先が白色化するため発見しやすいのに対しサルナシは葉柄が赤紫色であることが特徴で、マタタビに比べて自生数も少ないようです。また、ミヤママタタビは本州中部以北に自生し、時に枝の上部の葉は白色で赤みを帯びます。

果実は小ぶりで、表面には毛がないためそのまま食べることができます。香りが強く、かすかな酸味と甘味があり、果実酒やジャムなどの加工にも利用されます。またビタミンCなどの栄養価が高く、タンパク質分解酵素を大量に含み、疲労回復、強壮、整腸、補血などの効能があるといわれています。



果実

展示室の植物 (55)

クンシラン

(別名ウケザキクンシラン)

ヒガンバナ科 クンシラン属



春になると毎年花を咲かせる多年草で、南アフリカのナターールが原産。日本には明治時代に入ってきました。ヨーロッパでは花を楽しむものとされていましたが、日本では万年青などと同様に葉を楽しむようになりました。

葉の幅が狭く長くなるものを高性系、短く幅広でコンパクトなものをダルマ系と呼びます。花色は濃いオレンジや赤みがかかった紅色で、花はじょうご型です。変種に白やクリーム色の花を咲かせるもの、葉に様々な模様の斑が入るものがあります。

ランと名前は付きますが、ラン科の植物ではありません。